

# 活動ノート



12月12日(土)  
アカマツ林作業、成木調査  
13:00~16:00



◆参加者： 松雪、榊、林、橋本、鎌田、静岡、川内、中嶋、岩尾、川上 計10名

◆内容： うん・え一会の終了後、アカマツ林下草刈りとアカマツ林成木調査を行いました。下草刈りは、13時半頃から2班に分かれて作業を開始しました。今日はB・C地区境界部尾根とF地区南半部に繁茂していたシダを中心とした下草刈りを行いました。B地区でのシダの繁茂は昔ほどではなかったのですが、マツクイムシのため切り倒されたアカマツの残材等が積み重なっており、刈りにくくかなり苦労しました。また、C地区西側の急斜面は昨年に刈ったシダの枯葉が堆積しており、また足場が極めて悪いこともあって、シダに埋もれながらの厳しい作業となりました。しかしながら、予定範囲のシダはほとんど刈ることができ、極めてすっきりした尾根となりました。一方F地区は、シダの繁茂が著しく、茎も硬くて太かったため刈込バサ

ミを使っての作業を行いました。繁茂域が広く全エリアを刈ることは出来ませんでしたが見違えるような景観となりました。このシダ刈りは、アカマツの実生幼木の生育を促進するために行ったのですが、今回刈ったエリアの一部(特にF地区)で幼木が多数生えてきているのを見ることができました。今後はもっと多くの赤ちゃんが出てくるものと思います。ただ、両エリアとも落ち葉や腐葉土が厚く堆積しているので、なるべく早い段階で地掻きを行う必要があることを痛感しました。一方、アカマツ林成木調査については、A~F全地区のすべてのアカマツ成木(胸高直径3cm以上)を対象に、胸高直径の測定と、樹勢の判定(今回から実施)を行い、調査票に記録する作業を行いました。前回の成木調査実施時に、胸高直径の計測位置に個体識別用のタグを取り付けていたので、その位置で計測するだけでよく、時間内ですべての成木の調査を終了することができました。確認できたこととしては、①全体的に昨年度より胸高直径が数ミリ~1センチ前後の伸びが見られた。②今年度伐採されていた個体は2本。③松枯れにより伐採予定と思われる赤テープを巻かれた個体を2本確認。です。(調査結果はp5の特集参照)

## 【ふりかえりより】

・シダ刈りも大変だったけど、マツの赤ちゃんに日が当たり気持ち良さそうだった。(川内)

・切株を更に短く切り、ひこばえが出ないようにした。(林)

12月20日(日)  
カブトムシの森作業と納会  
9:30~15:30



◆参加者： 川上、吉田、榊、鎌田、富永、松雪、林、岩尾、山川、橋本、新地、井上、新牛込家4名、松尾、中嶋、静岡 計19名

◆内容： カブ森B地区は最近作業をしていなかった為、ササや萌芽枝が目立ち、通路の落葉もかなり積もっていたので、これらについて整備作業を行ないました。このエリアは急斜面で足場が悪いので慎重な作業を行いました。人数が多かったので作業がはかどり、川から西側はA地区との境まで下草刈りが完了しました。旺盛に生えている萌芽枝や、元気のいいササを刈るのには刈込バサミが威力を発揮しました。また、東側通路沿いのヤブツバキも今年伐採していなかったため、林さん、山川さんで2本除伐しました。落葉掻きは岩尾さんが奮闘しました。今日の活動で、暫く手つかずだったB地区の大半の下草刈りが出来て良かったです。これでカブ森全ての地区で同程度の

整備ができました。来年は間伐やA、C地区での大物の除伐を進めるとともに、下層植生の変化をフォローして今後の埋土種子導入を検討していきたいと思います。午後からは納会でした。今年が目玉はマダケを使ったバウムクーヘンづくりと棒パンづくりでした。焼きソバ、豚汁を食べながら、まずはバウムクーヘンづくり。パンケーキ用のペーストをうまく巻きつけるのに苦労しながら気長に焼いていったので、出来上がったバウムクーヘンの味は格別でした。充分お腹も一杯になった頃、トドメのパンづくり。マダケの周りにパン生地を薄く巻きつけて焼くのですが、こちらはバウムクーヘンと違って簡単で、10分もかからず焼きあがります。芯からはずしたパンの穴にウィンナーソーセージを詰めて、マスタードとケチャップをかければホットドックの出来上がり！午後の部も予定通り終了して、センターに戻って道具整備の後、今年1年の振り返りと来年への思いを語って貰いました。

#### 【ふりかえりより】

・木に囲まれた中での活動はとてもやりがいがありました。納会でのパン作りは楽しかったです。(松尾)

・2015年も無事に活動を終わりました。本日の納会も盛り沢山のメニューでお腹がいっぱいになりました。(鎌田)

1月17日(日)

### アカマツ林除間伐・地掻き

9:30~12:30

◆参加者：松雪、榊、林、井上、鎌田、岩尾、静岡、国広、新地、村山、毛利、中嶋、篠原、橋本、計14名、他体験参加3名



◆内容：天気予報では午後から雨でしたので、午前中で終わる作業に変更しました。今日は整備班14名、幼木調査班3名に分かれての作業です。整備作業班は伐倒班2班と地掻き班1班の計3班に分かれて作業を開始しました。伐倒班は、D地区の谷側斜面にでんと座っていた直径20cm強のユズリハと、E地区でこのまま放置しておく厄介なことになりそうな直径15cm強のアラカシの間伐を行いました。ユズリハ班は、まず伐倒方向に立っていた直径10cm以下のコナラなどの中低木を除伐し、その後急斜面の肩部という作業のしにくい場所にあるユズリハの伐倒に取り掛かりました。作業足場が悪いこともあって、受け口の切り込みにかなり苦労しましたが、11時半頃には予定通りの方向に伐り倒すことができました。その後、全員で葉や幹の処理を予定時間内に終わりました。アラカシ班も、まずは周辺に生えていた直径10cm以下の灌木をすべて伐って作業エリアを確保した後、低崖の上立っていると言っても良い状況にあるアラカシの間伐に取り掛かりました。作業足場が極めて悪かったため、ロープで作業者の安定を確保しながらの作業となりましたが、何分にもアラカシという極めて堅い木であったため、体力をすり減らしての伐倒となりました。でも、若い井上君の最後まで

の頑張りによって、11時頃には予定通りの伐倒を終えることができました。その後、30分程度で材処理を手際よく終え、雨が降り出す前に作業を終えることができました。そして、最後の地掻き班は、1/15の柏陵高校環境コース生徒による地掻きに引き続く形で、A地区で残っていた区域の地掻きを行いました。作業範囲自体はそれほど広くはなかったのですが、昨年度地掻きを行わなかったためか思った以上に量が多く、11時頃まで作業がかかりました。ただ、地掻きを行いながら、多くの実生幼木を確認することができ、これまでのA地区での整備が徐々に実を結びつつあることを実感することができました。12時頃にはすべて作業を終えることができ、その後幼木調査班と合同で振り返りを行った後センターに戻りました。なお、今日は3名の体験参加者があり、短時間でしたがアカマツ林での整備作業の一端を経験してもらいました。その結果、3名の方全員に入会して頂きました。仲間が増えた嬉しい活動日となりました。最後に、これまでの整備作業のお蔭でアカマツ林らしいエリアが徐々に広がってきています。ただ、今後は地形的に厳しい急斜面にある広葉樹、それも大径木が多いので作業足場の確保や作業道の整備、さらには的確なロープワークの習熟など、これまで以上に安全に配慮した作業を行っていく必要があります。

#### 【ふりかえりより】

・足元の整理、足場の確保が大事ですね。(国広)

・初めての幼木調査で調査の難しさを実感しました。(橋本)

2月7日(日)  
カブトムシの森作業とシイタケ駒打ち(活動説明会)  
9:15~14:30



◆参加者：鈴木、山川、橋本、林、榎、松雪、鎌田、川上、長澤、宮田家2、国広(信、友)、静岡、富永 計15名、他一般参加5名

◆内容：本日は、早朝、晴れ間も見えていたのですが、9時頃から雪が降り出してずんずん積り始めました。市民の森閉鎖の可能性も見えかかれしながら、状況を見ていたのですが、なんとか閉鎖はまぬがれ、勇気ある一般参加者も2家族来られました。当初の計画を変更し、メインのしいたけコマ打ちに絞って実施することにしました。はじめにセンター展示室で森会紹介ビデオを見て、センター近くのしいたけ狩りを行いました。寒さのためか大きなものは少なかったですが、みなさん喜んでとっていました。それからキャンプ場へ移動して、富永さんのレクチャーの後、さっそくコマ打ちを始めました。一般の方も森会のみなさんも入り混じって36本の榎木とお持ち帰り用の榎木に、午前中の内に植菌できました。昼食前には、富永さんに火の起こし方、静岡さんにロケットストーブの紹介、宮田さんに森会へのお誘いスピーチをしていただき、かまどに火も入ったところで行事は終了しました。終了後はたき火を囲みながら昼食を食べたり、薪

をノコギリで切り出したり、ロケットストーブで遊んだり、思い思いに過ごしました。終了時にはいつものまにか雪もあがり良い天気になりました。一般参加者からは「子どもたちはしいたけのコマ打ちがとても楽しかったようです。しいたけを頂くときに思い出しながら頂きたいです。」とのコメントをいただきました。

【ふりかえりより】

・シイタケのコマ打ち、初めての体験でした。(長澤)  
・ゆっくりとみなさんと楽しい時間を過ごせました!(宮田)

2月21日(日)  
安全講習会

9:30~15:20



◆参加者：榎、静岡、林、橋本、川上、鎌田、岩尾、国広(信、友)、篠原、新地、神田、今林、井上、毛利、長澤、鈴木 計17名、他体験参加1名

◆内容：今日は、安全講習会です。はじめに、森会の作業の目的や伐倒の補助機器などを説明しました。次に本日使う道具を準備したあと、ミーティングルームで、安全講習会を行いました。「伐木造材のチェーンソーワーク」の本から、作業前の打合せ、伐採前の準備作業、指差し安全確認の手順・合図、受け口作り及び追い口の作業について学びました。講習会を終え、準備体操の後、カブ森C地区へ移動しました。カブ森では、スギの木を切ることで、まず、

足元周辺の邪魔なものを整理しました。伐倒方向を制限して安全を確保するため、スギの木の上部からロープを張り、その後、受け口作りをし追い口を切る作業を行いました。鋸を持った人が、入れ替わりながら切っていく、作業の進む中で、安全な作業について確認しながら行いました。最後は、クサビを使って、スギの木の安全な伐倒ができました。倒した後は、スギの木の上部についている枝から順番に除伐していきました。12時になったのでスギの木の下の部分の枝は残したまま、道具の確認をして休憩・昼食時間としました。昼食後、倒したスギの残った枝を、切りやすいように玉切りして枝払いを行いました。枝葉はC地区奥の堆肥床へ運び、玉切りしたスギは遊歩道沿いに並べました。次に、2本目のスギも1本目と同様に処理しました。14時、周辺が綺麗になったことを確認して、本日の作業を振り返り、集合写真をとってセンターへ戻りました。ミーティングルームにて、今日の振り返りで参加者の感想や意見を聞き、安全作業の重要性を再確認しました。本日伐倒したスギの木は、1本目が1.3m、2本目が1.6mでした。安全作業とは、参加者も含めて全体の安全が一番大事です。焦らずにゆっくりと周辺を確認しながら作業を進めましょう。今日の安全講習会の成果を生かし、これからの森会活動も、安全第一に作業をしていきたいと思えます。

【ふりかえりより】

・久しぶりに木を切る作業に参加できて楽しかった。2本目の伐倒でクサビを使ったが倒れるときは怖かった(篠原)